

2018

クリニカル・クラークシップⅡ

PhaseⅡ A・B

選択 CC 実習ガイドライン

平成30年10月1日～平成31年5月31日

平成30年度 M5（第41回生）

筑波大学 医学群 医学類

1. 選択 CC とは

PhaseI で経験できなかった診療科や、より深い学習のためすでに経験した診療科を再度選択する CC。4 週×2、2 週×4 の合計 16 週、6 診療科を選択する。このうち 2 診療科は PhaseI で経験できなかった内科 2 科を選択するが、他は自由に選べる。ただし、6 診療科はすべて違う科を選ぶこととする。

2. 選択 CC の診療科選択について

- ・希望する診療科について、平成 30 年 5 月 7 日(月)までに希望調査書を提出する。

3. 選択 CC の実習内容について

- ・夏頃の実習診療科発表後、各診療科の指導教員に連絡し、実習内容について相談すること。
- ・選択 CC の実習内容は、各診療科と相談の上で決定する。
- ・外病院実習を希望する場合は、必ず前もって各診療科の指導教員と相談すること。実習直前や実習開始後の要望には対応できない場合があるので注意すること。
- ・海外実習を希望する場合、5 年次の 5 月に実施される海外実習選考試験を受ける必要があり、審査等を経て、原則、自由選択実習期間中に海外実習を行う。選択できるコースが限られるので注意すること。
- ・新医学専攻は選択 CC、地域 CC、自由選択実習を研究室実習に振り替えるので選択 CC は行わない。

4. CC 発表会について

医学専攻コース選択者は選択 CC における経験(担当症例、出来事などの深く学んだことについて)の中から、新医学専攻コース選択者は研究室実習の中からテーマを設定し、担当教員の指導のもとで準備を進め、ポスター発表を行う。

◆ CC 発表会の目的

- ・学会発表の仕方を学ぶ(ポスター作成、プレゼンテーション)
- ・選択 CC 研究室実習で学んだことを学生間で共有する
- ・将来へのキャリアパスへの準備
- ・下級生が選択 CC 研究室実習を計画する上で参考とする

◆ 期日 平成 31 年 7 月 1 日(月)、7 月 2 日(火) 予定(M6 総括講義開始前)

◆ 場所 臨床講義室前フロアほか

◆ 形式 ポスタープレゼンテーション

※CC 発表会の詳細は、平成 30 年 9 月末の Phase II ガイダンスにて周知・提示する。

5. 病気・怪我の対応について

病気や怪我による欠席、遅刻の連絡は院内での実習の場合は、教務または PCME 室へ電話で必ず連絡する。院外での実習の場合は、必ず各自で院外実習病院に電話で連絡し、その後、教務または PCME 室へ電話で連絡する。

第41回生CCスケジュール

学年	月日	期間	予定			
M5	2018/4/2 ～ 2018/9/28	20W + GW 1W + 夏休み5W	CC Phase I			
			4/30～5/4(GW)			
			CC Phase I			
			7/30～8/31(夏休み)			
			CC Phase I			
	医学専攻			新医学専攻		
	2018/10/1 ～ 2019/5/31	30W + 2W休み	CC Phase II	2018/10/1 ～ 2018/12/21	10W + 2W休み	CC Phase II
	M5総合試験 2018年11月21日(水)・22日(木)					
	2018/10/1 ～ 2019/5/31	30W + 2W休み	CC Phase II	2018/10/1 ～ 2018/12/21	10W + 2W休み	CC Phase II
			12/24～1/4(冬休み)			12/24～1/4(冬休み)
			CC Phase II	2019/1/7 ～ 2019/6/28	24W	研究室実習 ※新医学専攻はPhase IIの総合診療科実習後、選択CCと地域CCは行わずに研究室実習を行う ※自由選択実習期間も研究室実習を行う
自由選択実習 (海外臨床実習者は海外実習)						
M6	2019/6/3 ～ 2019/6/28	4W				
	2019/7/1～		総括講義 & 総括試験 & 総合試験 & M6 OSCE			

2018年11月21日(水)、22日(木)はM5総合試験を実施します。

【目次】

1. 消化器内科	1
2. 消化器外科	2
3. 循環器内科	4
4. 心臓血管外科	5
5. 呼吸器内科	6
6. 呼吸器外科	7
7. 脳神経内科	8
8. 脳神経外科	9
9. 腎臓内科	10
10. 腎泌尿器外科	11
11. 内分泌代謝・糖尿病内科	13
12. 膠原病リウマチアレルギー内科	14
13. 血液内科	15
14. 整形外科	16
15. 麻酔科	18
16. 救急・集中治療	19
17. 産婦人科	21
18. 小児内科	22
19. 小児外科	23
20. 精神神経科	24
21. 病理診断科	25
22. 形成外科	26
23. 歯科口腔外科	27
24. 乳腺・甲状腺・内分泌外科	28
25. 眼科	29
26. 耳鼻咽喉科	30
27. 皮膚科	31
28. 放射線腫瘍科	32
29. 放射線診断科	34
30. 総合診療科	35
31. 感染症科	37

1. 消化器内科

1) 実習の概要

消化器領域の急性疾患、慢性疾患、悪性疾患等の診断および治療法について実習し、理解する。

2) 実習の特徴

初回)

消化管、肝胆膵、がん薬物療法のうち興味のある分野を中心に実習できる。(複数でも可)

- 消化管分野：消化管疾患（炎症性腸疾患、手術や内視鏡治療が可能な悪性疾患など）患者を担当し、消化管疾患について学習する。

内視鏡検査や治療の見学、介助を行う。

外来実習では、炎症性腸疾患の診療や消化性潰瘍、ヘリコバクターピロリの除菌、逆流性食道炎などの一般的な消化器疾患の診療について見学する。

担当：奈良坂俊明

- 肝胆膵分野：肝胆膵疾患（肝炎・肝硬変、胆道結石症、膵炎、肝胆膵悪性腫瘍など）患者を担当し、肝胆膵疾患について学習する。

肝胆道系内視鏡検査・治療や、ラジオ波焼灼術、経皮経肝胆道ドレナージなどの肝胆道インターベンションの見学、介助を行う。

外来実習では、慢性肝障害や肝癌の診療、胆膵癌の化学療法などについて見学する。

担当：福田邦明

- がん薬物療法分野：消化器癌（食道癌、胃癌、大腸癌など）患者を担当し、消化器癌について学習する。

最新の化学療法プロトコルや、臨床試験、終末期医療などを知ること、がん診療についての理解を深める。

外来実習では、外来化学療法やその副作用対策、緩和ケアチームとの連携など外来がん診療の現状について見学し、理解する。

担当：森脇俊和

2回目)

実習内容は基本的には同様であるが、初回の実習で見られなかった疾患、興味のある疾患、治療処置などに積極的に参加してほしい。

3) 院外実習施設 なし

2. 消化器外科

1) 実習の概要

- 消化器外科では人体の消化・吸収・排泄を担う全ての臓器が治療対象であり、取り扱う臓器の数が多いこと（食道、胃、十二指腸、小腸、大腸、肛門、肝臓、胆管、胆嚢、膵臓、脾臓）、各臓器に多種多様な手術があることが特徴です。
- 扱う疾患は、各臓器の癌を対象とした悪性腫瘍手術、急性腹症に対する緊急・準緊急手術（胆石症、急性虫垂炎、腸閉塞）、良性疾患に対する手術（ヘルニア、痔核手術等）など多岐に渡ります。いわゆる“（一般）外科”の7～8割は消化器外科領域であり、外科系を志望する者にとっては必修の診療科です。
- この選択CCでは、高度な外科治療（肝胆膵高度技能手術、腹腔鏡下悪性腫瘍手術）を中心に見るコース、一般総合病院における common な外科治療および緊急診療を学ぶコースなど、希望に応じて選択・学習できます。

2) 実習の特徴

本実習では、1コマ2週間および2コマ4週間の選択が可能です。2週間の場合原則院内での実習となります。2回目の人は院外実習も選択できます。4週間の場合は院内2週、院外2週を原則とし、大学病院と一般病院で扱う疾患・手術の違いを比較しながらバランスよく学習することができます。

・院内実習コース

① 消化管腹腔鏡手術コース

担当：榎本剛史・久倉勝治・明石義正・大原佑介・小川光一、大和田洋平

学べること：消化管悪性腫瘍（胃癌、大腸癌、食道癌）に対する腹腔鏡手術、手術助手（スコピスト）、ドライボックストレーニング、アニマルラボ(年1-2回開催)など

② 肝胆膵高度技能手術コース（腹腔鏡手術含む）

担当：小田竜也・倉田昌直・高橋一広・下村治

学べること：肝胆膵悪性腫瘍に対する手術、移植手術、手術助手、腹腔鏡手術（肝切除、膵切除、脾摘）、重症患者に対するICU/HCUでの周術期管理など

・院外実習コース

施設により病床数や外科の規模が異なり、経験できる疾患・手術も異なります。大学病院と同様に高難度手術を行っている施設もあれば、commonな手術を中心に行っている施設もあります。世の中では大学病院より一般病院に勤務している外科医の方が多いのです。比較的若い外科医に執刀機会が与えられることも多く、学生の皆さんにとってはより近い将来が想像できることでしょう。

3) 院外研修先施設

同一期間に各施設1名を原則とします。

	病院名	所在地	責任者	宿泊施設有無
①	国立病院機構 水戸医療センター	東茨城郡茨城町		有
②	筑波学園病院	つくば市		無
③	国立病院機構 霞ヶ浦医療センター	土浦市		無
④	筑波メディカルセンター病院	つくば市		無
⑤	龍ヶ崎済生会病院	龍ヶ崎市		無
⑥	茨城西南医療センター病院	猿島郡境町		有
⑦	筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター 水戸協同病院	水戸市		無(2500円/泊の補助あり)

実習先は希望を聞いて振り分けますが、施設毎の偏りが大きくなるよう調整させていただきます。特に宿泊を伴う施設は地域実習や他科との兼ね合いで、希望に添えないこともあります。車を持っていないなど、遠方への実習が難しい場合には事前にお知らせ下さい。

4) 学生への要望

消化器外科では、“Academic mind”をもった外科医の育成を目標にしています。臨床現場では主体的に学ぶ姿勢が何より重要であり、実習期間でどれだけ学べるか、どれだけの手術・手技を経験できるかは各自のモチベーション次第です。

外科医不足が深刻化している昨今ですが、皆さんが患者さんに信頼される、質の高い医療を提供できる外科医を目指せるよう、診療科一同でサポートさせていただきます。明るく積極的に実習に向かってください。

3. 循環器内科

1) 実習の概要

循環器内科で学ぶ診療内容は、この20年間で急速に発展した分野です。その進歩は、以前から深く研究されてきた循環生理学の知識を基盤にしています。医学生諸君は、最先端医療にとらわれることなく、基本的な循環動態の理解を納得の行く形で学習してもらいます。その上で、最先端医療を自身で体験して欲しいと思います。朝から夜までレジデント、オーバーレジデント、もしくは講師の先生と行動を共にし、技術と知識を吸収してもらいます。循環器疾患の診察法・心電図・心エコー・その他の画像診断・虚血性心疾患・不整脈・薬物療法・心臓リハビリに関するクルズスを行い、知識の補完を行います。

2) 実習の特徴

初回)

現在の循環器分野は学ぶべき範囲が非常に広範囲に及び、基礎的な分野から最先端の分野まで混在しています。医学生諸君は、成書と現場で行われている診療内容を照らし合わせ、ファンダメンタルな部分とアドバンストな部分、コントロールな部分をしっかりと把握し、それぞれの分野を学んでもらいます。それにより、何が真実であり何がわかっていないのか、更には何を指して臨床研究が進んでいるのかを理解してもらえenと思います。

大学病院では不整脈のカテーテル治療症例が多く、また虚血性心疾患・心不全も重症例に対処していること、そして稀な循環器疾患を経験できることを特徴としています。

2回目)

通常の診察実習以外にも循環器診療・治療に欠かせないカテーテル検査・治療、心臓超音波検査等にも実際に手を洗って参加してもらい、循環器診療の醍醐味を味わってもらいます。希望者には、日本循環器学会関東甲信越地方会に演題を出して参加してもらい、発表を行ってもらいます。

3) 院外実習施設

初回)

一般的な循環器疾患を数多く経験したい場合は、実習期間内に2週間程度、水戸協同病院・茨城県立中央病院・西南医療センターで実習してもらうことも可能です。

- ・水戸協同病院 一般的な循環器病の診療を行っています。心電図講義の評判が良い。
- ・茨城県立中央病院 一般的な循環器病診療を行うとともに、大学病院同様に不整脈のカテーテル治療も行っております。
- ・西南医療センター 一般的な循環器病診療を行っていますが、実際のカテーテル検査に入ってもらいます。

2回目) 研修先・内容は、初回と同様です。

4) 学生への要望

循環器のみならず、強い興味と希望を感じる分野へ医学生諸君が進んでくれることを希望しています。内科学は、医学の発展の中心でありその王道といって過言ではありません。その中でも循環器内科は従来の薬物療法に加えて、より侵襲的な手技を駆使することから外科的な性格もあわせ持った内科分野と言えるでしょう。そのような性格をより深く知りたいと思う医学生に参加してもらえればと思います。

当グループには毎年3～5名の入局者がおり、中には循環器内科の実習をきっかけに入局を決めた先輩もおります。たゆまない努力を惜しまない医学生にぜひ熱い循環器内科を体験して欲しいと思います。

4. 心臓血管外科

1) 実習の概要

当科では受け持ち制度と積極的な診療参加を基本としています。当科での実習目的は、第一線の臨床現場においてジュニアレジデントに匹敵するレベルの心臓血管外科医療体験をすることにあります。特に受け持ち患者については、術前アセスメントと手術計画をたて、術前カンファレンスで討議することにより心臓血管外科の理論と實際を体得してもらいます。さらに手術および術後管理に参加することにより、心臓血管外科における治療を一連のプロセスとして体感し、実臨床における問題解決能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーションスキルを養います。心臓血管外科を志望する者だけでなく、循環器学一般、救急医学、集中治療あるいは外科学全般に興味のある学生に広く実習の門戸を開放しますので、卒後の進路選択のためにも有意義な機会となるでしょう。担当レジデントや受け持ち患者と積極的に関わり、実り多い選択 CC としてください。

2) 実習の特徴

この選択 CC の原則は、附属病院における 4 週間連続の個人単位での能動的な臨床実習です。当科では、小児から成人心疾患、動脈疾患、静脈疾患と幅広い疾患を取り扱っています。受け持ち症例のみではなく、積極的な手術見学やカンファレンスでの討議をとおして幅広い知識の吸収に努め、心臓という生命に直結する臓器を扱う、心臓血管外科特有の実臨床の面白さや困難さをリアルに体験してください。受け持ち学生として診療プランを立て、カンファレンスではプレゼンテーションしてもらいます。ミニレクチャーなどを通して教員と対話する機会もあり、知欲が旺盛であるほど得るものは大きくなります。ぜひ、教科書だけでは得られない、現場の経験に基づく外科理論やサイエンスに深く踏み込んで勉強してください。

また、当科教員はベトナムでの医療支援活動を定期的に行っており、タイミングが合えばこれに同行して発展途上国での心臓血管外科医療を体験できるかもしれません（過去に計 5 名の医学類生が同行しています）。

さらに、学術的に貴重な症例を胸部外科学会地方会で発表する機会もあります。研究室実習で成果を上げ、国内外での学会発表や英文論文の作成を行った学生もいますので、興味のある学生は教官に相談してください。

3) 院外実習施設

希望者が重なる場合には県内の関連病院（筑波メディカルセンター、日立総合病院）での実習を組み入れるもあります。

4) 学生への要望

知識は与えられるものではなく、自ら積極的に獲得して行くものです。

実際の臨床は 24 時間休むことなく常に動いています。リアルタイムで変化する実臨床の中で、より多くのチャンスが得られるよう、十分に時間を確保して実習に臨んで下さい。また、手術見学は外科実習の最大の特権です。すべての症例、理解を深めるためにも手術の見学は基本です。モチベーションの高い学生の積極的な参加を期待しています。

5. 呼吸器内科

1) 実習の概要

呼吸器内科診療の特徴として、臓器の複雑さ、疾患の多様性が挙げられます。COPD や間質性肺炎などの慢性炎症性肺疾患、喘息などの免疫・アレルギー疾患、肺癌などの腫瘍性疾患、結核や真菌症を含む感染性疾患といった様々な疾患がその対象となります。また胸部のエックス線や CT などをつけかけとして、心疾患、他臓器原発の悪性疾患、膠原病などの疾患が見つかることも少なくありません。M4 のクリニカル・クラークシップ (CC) では筑波大学附属病院で実習が行われますが、集学的治療が可能であるという大学病院の機能を反映し、呼吸器内科の入院患者の多くが肺癌患者であり、院内実習では経験できる疾患の種類が限られていました。選択 CC では呼吸器内科を初めてまわる方と 2 回目となる方になりますが、初回、2 回目に関わらず全員が院外実習になります。そのため今回の選択 CC では、関連市中病院での実習を通じて、多様な呼吸器疾患の診療を経験してもらいたいと思います。

2) 実習の特徴

初回、2 回目)に関わらず、全員が院外実習になります。

下記の通り、県内の関連病院での実習となります。

いずれの病院も若手からベテランまで複数の呼吸器専門医が常勤し、地域の基幹病院としての役割を担う茨城県内の関連施設となります。市中肺炎、喘息、COPD などの common diseases を中心に、急性期から慢性期まで、入院だけでなく外来診療も含めて、様々な呼吸器疾患の診療に参加してもらいます。それぞれの実習病院には、急性期の患者が多い、結核病棟がある、勉強会が多いなどの特徴があります。また病院によっては宿泊や食事が利用可能なところがあります。詳しくは掲示板に各病院の呼吸器内科での研修の特徴を紹介した資料があるので参考にしてください。

3) 院外研修先施設

初回、2 回目)ともに実習先の候補病院は次の通りとなります。

日立総合病院
茨城東病院
国立病院機構水戸医療センター
筑波メディカルセンター病院、
茨城県立中央病院
水戸協同病院
茨城西南医療センター
筑波記念病院
霞ヶ浦医療センター
龍ヶ崎済生会病院
小張総合病院

ただし、みなさん希望に沿った病院を選べるように配慮していますが、特定の病院に希望が集中する場合や病院の受け入れ状況により、希望に添えないことがありますのでご了承ください。

4) 学生への要望

それぞれの実習病院には、経験・知識が豊富で教育熱心な医師が揃っています。しかし担当医師の最大限の教育的能力を引き出すためには、実習に臨む学生のみなさんの積極的な態度が不可欠です。担当の医師とよくコミュニケーションをとって積極的に診療に関わり、実習を有意義なものとして下さい。また学外実習は一般の病院における医師の仕事の実態を知るうえでも貴重な機会となります。医師としての将来設計をする上で、ここでの経験を生かして欲しいと思います。

6. 呼吸器外科

1) 実習の概要

呼吸器外科の診療を、入院から退院まで同一の患者さんで経験し、医師の仕事を本格的に体験する。特に処置、手術を多く経験する。肺癌・縦隔腫瘍・気胸等の呼吸器外科手術対象疾患の基本的知識を身に付けた上で実際の手術に臨み、標準的外科治療および胸腔内の立体的解剖を理解する。

2) 実習の特徴

大学病院及び院外実習施設での実習によって、高度な診断能力を身につけるとともに、基本的手術手技（開胸、閉胸、胸腔鏡、鏡視下鉗子操作）を指導者のもとで行えるようにする。2 回目の実習では、基本的手術手技に加えて、呼吸器外科的な処置（胸腔穿刺、胸腔ドレーンの挿入、気管切開）を指導者のもとで行えるようにする。

- ・ 胸腔鏡手術ではモニターにて術者と同一の視野のもと解剖および手術の実際の手技・手順を理解できる。胸腔鏡操作・皮膚縫合等の基本操作を実際に行う。
- ・ ドライボックス等を用い、基本的的外科手技・胸腔鏡手術手技を体得する。
- ・ 摘出豚肺を用いた肺切・肺血管の剥離操作等の実習を行う。
- ・ 更に希望者にはブタを用いたウェットラボにて実際の手術手技を体得する機会を用意する。ウェットラボでは胸腔鏡下肺切除を遂行することを目的とする。
- ・ 胸部X線・CT読影の基本を学び、実際の症例で読影の経験を重ねる。

3) 院外研修先施設

希望により、呼吸器外科の関連病院での実習をコーディネートします。できるだけ希望に添えるよう手配しますが、必ずしも希望する施設での実習ができるとは限りません。

- ①筑波メディカルセンター病院（つくば市）
- ②土浦協同病院（土浦市）
- ③県立中央病院（笠間市）
- ④日立総合病院（日立市）

4) 学生への要望

肺癌は癌死因の第1位で罹患率も年々増加しており、その対策の重要性が更に高まっています。肺癌および呼吸器外科に興味のある学生の積極的な参加を待っています。ドライラボや豚肺を用いたシミュレーションを体験してもらう等、充実した実習ができるようにグループ全員で熱意を持って指導します。

7. 脳神経内科

1) 実習の概要

- ① 数人の入院患者を受け持ち、病歴聴取に始まり部位診断から原因診断に至る過程を体験し、神経学的診察法に習熟し、神経症候学や主要な神経疾患の概要を学習する。
- ② 回診などでプレゼンテーションの基本を学び、実践する。
- ③ 教員のクルブスに参加し、神経内科学の特色、エッセンスを学ぶ。
- ④ 電気生理学的検査や髄液検査、神経・筋生検を見学し 神経内科学的検査を体験する。
- ⑤ 数回の外来実習に参加し、外来での神経内科疾患を体験する。
- ⑥ 採血などの簡単な手技を行う。

2) 実習の特徴

初回)

- ① 実際に患者を受け持ち、チーム医療の一員として行動する。
- ② 医療面接、診察、検査・治療計画、鑑別診断などを上級医の指導のもとで行い、実習がそのまま OSCE の訓練となる。
- ③ 入院・外来ともに多彩な神経疾患を体験することが出来、国家試験レベルの疾患は全て学習出来る。
- ④ 学外・学内で行われる関連分野のセミナーや講演会に参加する。

2回目)

初回と同様であるが、学生の学びにより適したと思われる症例、やや複雑であるが学術的に興味深い症例などは初回学生に比して優先的に受け持つ。

3) 院外実習施設

初回)

予定していない

2回目)

予定していない

4) 学生への要望

- ① 担当医グループ（主治医、副主治医、受持ち医、学生）の一員としての自覚を持つこと。
- ② 自分の受け持ち患者のみでなく、回診や他患者の検査などで貪欲に他の症例からも学び、吸収して欲しい。
- ③ 疑問点などは遠慮せずにスタッフや上級医に質問すること。

8. 脳神経外科

1) 実習の概要

- A) 回診、カンファランス（プレゼンの練習）、抄読会への参加
- B) 診療への参加および実技：診察、手術、脳卒中救急、採血、その他の検査
- C) クルズス：画像診断、顕微鏡下手術演習、脳血管障害・血管内治療演習、神経診察法、脊髄脊椎疾患、悪性脳腫瘍、良性脳腫瘍、小児脳神経外科など
- D) 口頭試問、アンケートおよびレポート作成

2) 実習の特徴

附属病院の脳神経外科は脳神経外科と脳卒中診療グループで構成されています。脳神経外科では脳腫瘍、小児脳神経外科、脳卒中診療グループでは脳血管内治療の症例が豊富であり、脳神経外科領域においてほぼすべての専門分野をカバーしております。それぞれのグループを2週間ずつ実習していただきます。

- ・ 毎週1-2名の症例を受け持つ
- ・ ベッドサイドやカンファレンスで積極的なプレゼンテーション
- ・ 救急症例なども対応可能
- ・ 豊富なクルズス
- ・ 英語回診(1回)

初回) 通常CCでは、上記A)-D)に示す内容に沿った実習を附属病院内で行っている。

2回目)

- ・ 特定の疾患や手技に特化した研修（たとえば脳腫瘍・血管障害・手術治療・血管内治療・小児脳神経外科・機能的脳神経外科など）、研究なども対応可能
- ・ 院外実習(筑波メディカルセンター病院・筑波記念病院)も可能(2週間)。脳外科急性期疾患や神経救急の研修が可能。
- ・ 実習期間中に学術総会が開催されている場合には参加も可能(一部補助あり)。

上記希望者は担当者(下記)にあらかじめ連絡をすること。連絡がない場合には希望に添えないことがあります。

(参考)

日本脳神経外科学会コンgres	2018/5/17-20(大阪)
日本脳神経外科学会	2018/10/10-12(仙台)
日本脳神経血管内治療学会	2018/11/22-24(仙台)
日本脳腫瘍学会	2018/12/2-4(神奈川)
日本脳卒中学会	2019/3/21-23(横浜)

3) 院外研修先施設

筑波メディカルセンター病院、筑波記念病院。

4) 学生への要望

Student Doctor となった皆さんには積極的な実習参加を期待します。脳神経外科ではジュニアレジデントになったつもりで、レジデント・CFと受け持ちになった患者さんの神経学的所見の推移を診察・記録し、手術に参加することはもちろん、教科書や文献的な考察も含めて行い、主体的に学んでいってください。質問や治療方針への提案も歓迎します。

実習内容について特別な希望がある場合には、以下のメールにて事前にご相談いただくようお願い致します。

(学生担当) 伊藤嘉朗

9. 腎臓内科

1) 実習の概要

腎臓内科の担当領域は、①様々な腎疾患の早期発見にあたる予防医学、②一次性、二次性糸球体障害の診断と治療、③急性腎障害、慢性腎臓病の管理、④本態性、二次性高血圧の診断と治療、⑤水電解質異常、酸塩基平衡障害の診断と輸液管理、⑥腎臓排泄薬剤の投与設計、⑦腎代替療法としての血液透析、腹膜透析と腎移植後の管理、⑧代謝・免疫疾患治療のためのアフェレーシス治療などの血液浄化療法など、非常に多岐に渡ります。特に慢性腎不全患者については、その内科的合併症全般の管理を行っています。また、これらの手技を実践するため、腎生検、血液浄化療法用の内シャント設置術、腹膜透析用カテーテル設置術など多くの手技もあり、2-4週間のCC期間に、可能な限り多くの腎臓内科疾患と技術を理解するとともに内科学全般に渡る管理法、治療法を経験してもらいます。

腎臓内科選択CCでは初期研修に匹敵するような質の高いCCを目指します。腎臓内科診療チームの一員として診療に参加し、実際に検査・治療計画の立案に携わり、医師としての思考、知識、技能、コミュニケーション力を身につけて腎臓内科疾患への理解をなお一層深めることを目標にしています。内科医として必要な基本的知識、技術から小外科の技術（内シャント手術）など、処置・手技も、指導医のもと積極的に経験してください。

2) 実習の特徴

実習期間中に入院から退院まで関われる症例を複数例担当してもらいます。希望があれば、あなたの興味のある疾患の症例を数多く担当できるようします。さらに、腎臓病理を勉強したい、学会発表をしてみたいなど、希望に応じて実習内容をフレキシブルに対応します。

また、4週間コースでは県内の腎臓内科の先輩の働いている総合病院など関連施設での実習も可能です。

初回) 2週間コース；院内。4週間コース；希望により院内または、2週間院内、2週間院外。

2回目) 2週間コース；希望により院内または院外。4週間コース；希望により院内または、2週間院内、2週間院外。

最終日の試問は院内で行います。

3) 院外実習施設

- ①筑波学園病院
- ②つくばセントラル病院
- ③水戸済生会総合病院

4) 学生への要望

尿検査異常から、腎炎、腎不全、透析、そして腎移植にいたる一人の患者さんを生涯にわたり関わられることも、腎臓内科の魅力です。

腎臓病は、他の臓器にも悪影響を与え、また全身病の一部として腎臓が悪くなることもあります。つまり、腎臓を管理することは、全身を管理することにつながります。腎臓内科に興味のある方はもちろん、generalist としての実習をしたい方も腎臓内科では学ぶことが多いと思われます。積極的な参加を希望します。

10. 腎泌尿器外科

1) 実習の概要

泌尿器科領域は良性疾患から悪性疾患まで多岐にわたる上に、内科的、外科的な診断から治療まで、幅広い知識と技術が必要となる特別な診療科です。

通常CCでは残念ながらその一部しか実習できませんので、泌尿器科の「選択CC」では、各自の興味に合わせて泌尿器科各分野の理解を深めることができるコースを用意しています。

2) 実習の特徴

初回) 通常CCと同じカリキュラムになります。4週のための選択となります。

事前の希望調査に応じて4週の実習のうちで2日間の関連病院実習ができます。

2回目) 「セミオーダーメイド実習」が受けられます。

通常実習に加え、下記の希望コースから1～2つを選択することができます。

その他、希望に応じて、可能な限り対応します。

A) 後腹膜外科医コース

後期研修医レベルの手術参加を目標に、通常の外科手技、腹腔鏡Dry-boxによる修練、手術支援ロボット“DaVinci”シミュレーター練習を通じた外科手術手技を学ぶことができます。

B) 泌尿器腫瘍内科コース

新規薬剤の治験や抗癌剤、分子標的治療薬の管理を中心に、外来化学療法の実状と管理方法や、泌尿器科に特徴的な症状の緩和医療を学ぶことができます。

C) 泌尿器ジェネラリストコース

大学病院以外にも関連病院を中心に実習を進め、将来的に泌尿器科を専攻しない場合に役に立つ尿路結石、排尿障害、泌尿器科一般診療を学ぶことができます。

D) ウロマニアコース

泌尿器科の特殊専門分野に触れることができます。排尿生理検査、男性機能障害、男性不妊症、女性泌尿器疾患、腎移植などを学ぶことができます。

＊ コース選択をもとに病棟・外来実習と院外実習をアレンジします。

＊ 希望および日程により研究会・学会への参加、基礎・臨床研究の体験、Wet-labでの内視鏡手術執刀もできます。

3) 院外実習施設

初回) 筑波学園病院、筑波メディカルセンター病院、県立中央病院

(希望者のみ。計2日間の見学になります)

2回目) 日立総合病院、筑波学園病院、筑波メディカルセンター病院、県立中央病院、など

日立製作所日立総合病院 指導医 3名：ロボット手術をはじめとして手術件数の多い病院

茨城県立中央病院 指導医 3名：ロボット手術など癌に特化した病院

筑波メディカルセンター病院 指導医 2名：一般泌尿器科として癌から良性疾患までみる一般病院

筑波学園病院 指導医 1名：不妊症、女性泌尿器疾患に特化した病院

4) 学生への要望

これまで、ポスター発表、論文作成、データベース作成から解析、一般病院での手術補助、などを体験した学生から、とても充実した実習をすることができた、という意見を多数いただいています。

ぜひ、やる気のある外科「系」志望の学生、集学的ながん治療に興味のある学生、いろいろなことに挑戦したい学生、まだ興味がはっきりしない学生、きっといい実習ができると思います。将来性のある学生の皆様を心より歓迎いたします。

選択 CC 希望者には事前に学生用メールアドレスに連絡しますので、希望をお聞かせください。また、通常・選択 CC 問わず、泌尿器科の実習内容についての御相談はいつでもお問合わせください。

<連絡先> 木村友和

1 1. 内分泌代謝・糖尿病内科

1) 実習の概要

A) 病棟実習

担当レジデントとともに、週1～2人の新入院患者を担当し、診療グループの一員として診療に参加する。栄養指導や運動療法、糖尿病教室、教育入院カンファレンスに受け持ちとして参加し、患者指導を実際に行う。

B) 外来実習

外来診療を見学し、外来における糖尿病の患者指導や甲状腺疾患について学ぶ（甲状腺疾患は外来診療が中心になります）。

C) 研究室実習（2回目のみ）

大学院生の行っている研究の補助を行うことにより、最先端の医学研究を体験するとともに、医学研究の臨床医学への応用について理解を深める。

2) 実習の特徴

初回)

1. 院内4週間の場合

患者の入院から退院まで一貫した実習をすることが可能です。内分泌の症例は糖尿病に比べると症例数は少なく、入院期間も短いですが、4週実習期間中に内分泌症例を1例以上、診断のための検査から治療方針の決定まで実習することが可能です。外来実習では、糖尿病を中心とした生活習慣病患者の外来診療を見学できます。また、入院することがほとんどない甲状腺疾患の患者を診ることが出来ます。

2. 院内2週・院外2週の場合

院内では、糖尿病や内分泌疾患の診断・治療、糖尿病教育について学びます。大学病院では、糖尿病合併症が進行した糖尿病患者や1型糖尿病患者の診療が中心になるのに対し、院外では、糖尿病の診断・治療に加えて、糖尿病を合併した様々な急性疾患を数多く学ぶことができます。

2回目)

初回で院内と院外を2週ずつ回った学生については、院内4週を基本とします。ただし、院外実習施設の受け入れ状況によっては、再度、院内2週・院外2週の実習も可能かもしれないので、問い合わせてください。

また、2回目の学生については、4週間の研究室実習も可能です。

当科では、転写因子に焦点をあてた脂質・エネルギー・糖代謝研究をしています。培養細胞や遺伝子改変マウスを用いた研究を体験できます。実験としては、RNA/DNA、転写因子を扱うことが中心になります。

研究の詳細は、<http://www.u-tsukuba-endocrinology.jp> を参照してください。

3) 院外実習施設

基本的に、初回・2回目ともに水戸協同病院になりますが、時期および希望人数によっては筑波記念病院になることがあります。

4) 学生への要望

主体的に実習に参加してください。

実習に関する希望（院内・院外や研究室実習）があれば、実習開始2週間くらい前までに申し出て下さい。

1 2. 膠原病・リウマチ・アレルギー内科

1) 実習の概要

リウマチ・膠原病学（臨床免疫学）は、慢性・炎症性・全身性・自己免疫性といった特徴を持つ膠原病に関して診断と治療を行います。膠原病の臨床症状は多彩かつ全身に渡るため、医師には幅広い知識が求められます。また治療には免疫抑制薬や生物学的製剤を用いるなど、専門性の高い分野でもあります。

当科での実習ではレジデントと共に診療を行う臨床実習の形態で、膠原病の診断と治療中の問題に対する考え方を身につけてもらうことが目標です。原則として学生は患者さんを1名担当し、診療や回診に参加します。

2) 実習の特徴

初回)

当科の特徴として、診断や治療方針が確定していない患者さんが入院してくることがあります。また治療開始後も副作用出現の有無を確認する必要があるため、一人の患者さんの検査・診断・治療が終わるまでに多少の時間を要します。このため比較的長期の本実習はリウマチ性疾患を学ぶのにふさわしいと言えます。

実習内容の特徴としては、外来見学があります。外来には診断能力が試される初診患者さん、リウマチ性疾患の代表的な疾患である関節リウマチの患者さん、長年通院している患者さんが来院します。外来見学はこういった方々を診察できる重要な機会です。当科に特徴的な検査としては関節超音波検査と関節MRIがありますが、検査室のスペースの都合上複数の実習生が同時に見学するのは困難です。このため希望があった場合に見学を設定したいと思います。回診、外来見学、クルズスの合間には、病棟での診療に参加するか、自主学習する時間となります。

臨床免疫学は、基礎的な研究と実臨床が密接に関連した分野であり、当科もリウマチ性疾患の治療に繋がる研究成果を得ることを目指しています。実習期間中、希望者は研究室見学やミーティング等へ参加することが可能です。

2回目)

基本的には初回のスケジュールを踏襲します。クルズスは初回時とテーマが重複するため、参加は希望性となります。入院患者さんを複数担当していただき、より多くの疾患の治療経過を勉強することができます。また、希望があれば医師の監督下で外来初診患者の予診をしていただくことも可能です。

3) 院外研修先施設

当科では院外研修の設定はございません。

4) 学生への要望

当科は総合的な知識を必要とする、ある意味‘内科らしい’内科です。学生は診断や治療方針について回診で医師と協議できるレベルの知識を身につけることを目標とし、主体的に実習に参加してください。比較的稀な疾患を持つ患者さんが多いため、担当以外の疾患にも興味を持って回診に参加し、実習を充実させてください。2名以上の患者さんを担当したい場合や、他の学生が担当している患者さんの診察に参加したい場合は申し出てください。

1 3. 血液内科

1) 実習の概要

M4の実習をとおして、既に症例把握、問題抽出、プレゼンテーション等の基本的能力が身に付いていると思います。この選択 CC では、血液疾患をより深く理解することを目標とします。代表的疾患の骨髄所見の学習、造血幹細胞移植の理解、血液内科の臨床検査(flow cytometry, PCR, FISH)の理解、血液内科の基礎研究体験等、血液内科診療及び関連の学問分野を学生の興味にしたがって学べるようなコース設定を予定しています。

M4で学び足りなかった、全く学べなかった、という方にもいろいろな血液疾患を教科書からでなく、患者さんから学ぶ機会を持てるようにしたいと思います。

2) 実習の特徴

初回)

M4の実習の発展のため病棟でいろいろな疾患を持つ患者さんを受け持ちたい、出来るだけ外来の患者さんを診てみたい、骨髄所見を勉強したい、移植患者さんを受け持ちたい、専門的検査を深く理解したい、という要望をかなえる実習を考えます。

2回目)

基礎研究を体験したい等、皆さんの希望に応じて学習内容を重み付けします。できるだけ要望に応じた内容にしたいと思いますので、どしどし希望を出して下さい。希望をかなえられるようにしたいと思います。

例えば、検査部で行われている骨髄顕鏡会に毎回参加し、レポートを作成して貰う、移植患者さんを集中的に受け持つ、遺伝子検査部で行われている検査を観て頂く、など出来るだけ希望に添い、深く実習して貰えるようにしたいと思います。

3) 院外実習施設

初回は院外の施設も希望があれば配慮します。

水戸医療センター、日立製作所日立総合病院など。

2回目は、基本的には院内が望ましいと考えますが、初回到院内だけであれば、2週間の院外実習も考慮します。

4) 学生への要望

希望を伝えて頂かなければ実りのない実習になります。

自分の目標をイメージし、それを実現するための希望を伝えて下さい。

Imagine the future!

1 4. 整形外科

1) 実習の概要

整形外科としての選択 CC コースの趣旨は、整形外科の多様性を深く理解してもらうことです。学生自身の選択により整形外科内の専門分野、関連病院、関連施設を1週間ごとにローテーションできるようにコーディネートします。専門分野では整形外科グループのスタッフと行動をともにして実習します。関連病院、関連施設では、整形外科外傷学、スポーツ整形外科学、運動器リハビリテーション学などの専門の他、一般病院における幅広い整形外科疾患治療を1週間学ぶことになります。また実習期間中に整形外科の学会・研究会・研修会があれば、是非一緒に参加してください。実習評価は筑波大学整形外科内実習時に行います。

2) 実習の特徴

選択 CC において初めての整形外科を実習する学生は、整形外科一般の大学附属病院実習（通常 CC と同じ）を2週間行います。すでに整形外科一般実習を行った学生、選択 CC が4週間の学生は（残り2週間）、下記の実習コースより1週間単位で選んで実施します。実習のバランスや実習先の状況にもよりますので、コーディネーターと相談して日程を決定いたします。

A 筑波大学内での実習：整形外科内専門分野

- ① 上肢機能再建・末梢神経・肩関節コース 担当：筑波大学整形外科 原 友紀・大西信三
- ② 脊椎外科コース 担当：筑波大学整形外科 山崎正志・國府田正雄・安部哲哉・船山 徹
- ③ 関節外科コース 担当：筑波大学整形外科 三島 初・金森章浩・西野衆文
- ④ 変形矯正・小児整形・足部コース 担当：筑波大学整形外科 野澤大輔・鎌田浩史
- ⑤ 運動器リハビリテーションコース 担当：筑波大学リハビリテーション 羽田康司・清水如代

B 関連病院、関連施設コース 下線の病院は通常 CC において院外実習を実施している関連病院

- ⑥ スポーツ医学コース 担当：筑波大学整形外科 金森章浩・鎌田浩史（相談の上内容決定）
特徴：競技レベル選手のスポーツ外傷クリニック、トレーニング施設
筑波大学体学系（保健管理センター・SPEC 等）宮川俊平（教授）
国立スポーツ科学センター、SMITセンター 等 スポーツ医学の現場での実習
- ⑦ 茨城県立医療大学付属病院（阿見町）
特徴：運動器リハビリテーションと高度なリハビリテーション施設
- ⑧ 筑波メディカルセンター（つくば市）
特徴：トップクラスの整形外科外傷症例数、整形外科救急
- ⑨ いちはら病院（つくば市）
特徴：トップクラスの脊椎外科症例数、膝関節専門症例も多い
- ⑩ 筑波学園病院（つくば市）
特徴：脊椎・膝・股関節・リウマチ関節外科など豊富な選択手術
- ⑪ 筑波記念病院（つくば市）
特徴：人工関節手術をはじめ多領域専門分野の多様な症例
- ⑫ 水戸協同病院（水戸市、宿泊場所相談可）
特徴：筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター、スポーツ整形外科

- ⑬ 水戸赤十字病院（水戸市、宿泊場所相談可）
特徴：膝関節・肩関節症例をはじめ多様な症例
- ⑭ 西南医療センター病院（境町、宿泊場所相談可）
特徴：豊富な整形外科外傷、地域医療の中心病院での整形外科体験
- ⑮ 公立昭和病院（東京都小平市、宿泊場所相談可）
特徴：都内の中核病院での整形外科体験
- ⑯ キッコーマン総合病院（千葉県野田市）
特徴：手外科を中心とした豊富な手術件数
- ⑰ 東京医大茨城医療センター
- ⑱ 霞ヶ浦医療センター
- ⑲ 総合守谷第一病院

他、関連病院相談の上、実習先を確認いたします

3) 学生への要望

院外での実習を希望する際には、早めに相談をお願いします。

必ずしも希望する施設、コースでの実習が可能わけではありません。できるだけ希望に添える実習になるように手配します。

自分から積極的に体・頭を動かすようにしてください。

実習コーディネーター 鎌田浩史

15. 麻酔科

1) 実習の概要

麻酔科選択 CC は 2 回目の麻酔科実習となるため、その内容はできる限り学生の希望に添うように調整する。附属病院において、1 回目の実習時に担当した症例より、より困難な症例の麻酔管理を中心に学習する。さらに、地域医療を支えている県内の麻酔科関連病院で実習することが可能であり、一般病院における麻酔の臨床の様子を知ることができる。また、希望者は麻酔科で行っている動物実験を見学し、臨床医学と基礎医学の接点を体験することができる。

2) 実習の特徴

4 週間コース)

附属病院臨床実習：通常 CC で担当した症例より困難な症例を中心に学習する。
関連病院臨床実習：麻酔科関連病院で臨床実習を行う。(希望者)
動物実験見学：麻酔科で行われている動物実験を見学できる。(希望者)
その他、要望に応じて対応する。

2 週間コース)

附属病院臨床実習：通常 CC で担当した症例より困難な症例を中心に学習する。
動物実験見学：麻酔科で行われている動物実験を見学できる。(希望者)
その他、要望に応じて対応する。

3) 院外研修先施設

(調整が必要なため、原則として 4 週間コース対象)

筑波メディカルセンター病院
日立総合病院
筑波学園病院
霞ヶ浦医療センター病院

希望があれば、その他の麻酔科関連病院でも実習が可能である。

4) 学生への要望

実習内容については可能な限り希望に応えたいと考えております。実習開始までに何を学びたいかを明確にして、実習開始時に個別に相談してください。

16. 救急・集中治療

1) 実習の概要

救急・集中治療部は救急患者及び重症患者に対して、迅速に重症度判断を実施し、生理学的状態の安定化を図りながら、適切な診断と治療を進める中央診療部門です。院内・外から入室する重症患者・救急患者、急性心筋梗塞や重症不整脈による心原性ショック、心臓血管外科や移植などの大手術術後や敗血症、呼吸不全、腎不全、中毒、多発外傷、広範囲熱傷熱傷、体温異常など多彩な疾患・病態を対象としています。

救急外来では、軽症から重症に至る救急患者の初期治療、及び診断過程を診療の補助をしながら、適切なトリアージ、重症度評価、鑑別診断を進めます。心肺蘇生や外科処置などの緊急対応を経験する機会も多い現場です。ドクターカーやドクターヘリ症例の応需、傷病者引き継ぎなど様々な救急患者に直面する多くの機会が得られます。

集中治療室では、各種酸素療法・人工呼吸管理・膜型人工肺(ECMO)などの呼吸管理、強心薬・昇圧薬及び補助循環を用いた循環管理、血液浄化法などの体液管理、鎮静・鎮痛・せん妄管理や蘇生後の体温管理療法などの中枢神経管理に加え、栄養管理、感染対策、及び早期社会復帰に向けたリハビリテーションの導入など、全身管理、臓器サポートを実施しています。院内の様々な専門診療科グループの医師及び、看護師、臨床工学士、理学療法士、薬剤師など、多職種と連携・協力しながら、チーム医療の要として様々な重症疾患の治療を行っています。

また救急・集中治療部は、多数傷病者発生時や災害時の対応にもリーダーとなって対応します。トリアージや、DMAT、院内災害モードの立ち上げなどを理解する機会が得られます。

2) 実習の特徴

初回)

救急患者に対する初期診療の流れ、バイタルサインの評価、全身モニタリングのみかたと重症度評価法を学びます。特に、心肺蘇生、外傷初期診療、敗血症診療の基本を復習し、傷病者を系統的に全身管理の観点から観察する目を養います。重症症例を担当し、各種バイタルサイン、臓器障害の重症度を適切にプレゼンテーションできる技術を取得します。

2回目)

重症救急患者を診療するチームの一員として、静脈路確保、モニター装着、心電図計測、緊急超音波検査、心肺蘇生、外科処置のサポートなどの実践的な実習を行います。傷病者の重症度を客観的に評価し、治療優先順位の決定と、必要な検査の選択を行います。また、重症患者のみかた、モニターのみかた、輸液管理の基本、人工呼吸管理の理論と実際などを、多数の症例を経験することにより習得できます。希望により、研究室実習を行うことも可能です。

3) 研修先施設

- 筑波大学附属病院
- 日立総合病院
- 水戸医療センター
- 茨城県立中央病院
- 土浦協同病院
- 筑波メディカルセンター病院
- 茨城西南医療センター病院



*選択 CC において、原則 1 施設を 2 週間以内とし、4 週間選択希望者は、2 週間筑波大学附属病院、2 週間院外医療期間とする。

4) 学生への要望

救急・集中治療は、チーム医療の冴えたる現場です。医学生も、クリニカルクラークシップ中ではありますが、診療に従事するチームの一員として期待されています。モニター装着、心肺蘇生、処置時の体位支持など、積極的に診療に参加・協力してチームに入って行って下さい。従って、外来や病棟でルーチンで実施される各種検査や手技は、十分に理解した上で参加して下さい。また救急・集中治療医学は、各臓器別の知識を横につなぐトレーニングでもあります。気道、呼吸、循環、中枢神経、感染、栄養、リハビリなど、各診療科で学んだ知識、重症度評価法をよく復習して臨んで下さい。

17. 産婦人科

*****「産科コース」*****

1) 実習の概要

2 ないし 4 週間にわたり、産科教員のもとで産科臨床実習を行います。

2) 実習の特徴

初回) 基本的にジュニアレジデント 1 年目と同等の扱いとなります。すなわち、シニア・チーフレジデントおよび教員の指導のもと、受持医に準じた立場として診療に参加していただきます。希望により、土日祝日、平日夜間の実習を行うことがあります。

2 回目) 初回よりもさらに実技（胎児超音波検査、外科的手技等）を積極的行います。

3) 院外研修先施設

初回) 院外研修は実施しません。

2 回目) 原則として院外研修は実施しません。

4) 学生への要望

PhaseI とは異なりますので、特に積極的な学生、産婦人科学・周産期医学に興味のある学生の選択を希望しています。具体的な実習内容については、小島真奈まで問い合わせてください。

*****「婦人科コース」*****

1) 実習の概要

2 ないし 4 週間にわたり、婦人科教員のもとで婦人科臨床実習を行います。

2) 実習の特徴

レジデントと同レベルの受持ち患者さんの把握、診療と共に、希望者には講師以上の指導で選択 CC ポスター発表の準備を開始します。希望により生殖医療専門医、婦人科腫瘍専門医を指導役に選ぶことも出来ます。関連病院での 1-2 週間の実習がアレンジ可能な場合もあります。自分が経験したいことを積極的に事前に相談して下さい。希望とタイミングが合えば学会出席も可能です。

3) 学生への要望

将来、産婦人科を専門とすることを考えているか否かを問わず、積極的に「あの婦人科での実習をもう一度経験したい!」と思う学生に選択してもらいたいと思います。また、選択に迷う場合、こんなことを経験したいなど、なんでも事前に佐藤豊実まで相談して下さい。

*****「産婦人科コース」*****

1) 実習の概要

2 ないし 4 週間のうち、1 ないし 2 週間は産科教員のもとで産科臨床実習を、もう 1 ないし 2 週間は婦人科教員のもとで婦人科臨床実習を行います。産科と婦人科のどちらを先に実習することになるかは事前に連絡します。

2) 実習の特徴

基本的にジュニアレジデント 1 年目と同等の扱いとなります。すなわち、シニア・チーフレジデントおよび教員の指導のもと、受持医に準じた立場としてチームの一員として診療に参加していただきます。希望により土日祝日、平日夜間の実習（当直等）を行なえることがあります。希望とタイミングが合えば学会出席も可能です。

3) 学生への要望

PhaseI とは異なりますので、特に積極的な学生、産婦人科学に興味のある学生の選択を希望しています。

18. 小児内科

1) 実習の概要

附属病院小児内科では専門分野に応じて4つのグループ（血液腫瘍、循環器、新生児、総合（神経・消化器・免疫・代謝内分泌・腎など））に分かれて病棟業務を行っています。さらに国内の大学病院としては数少ない小児救命救急センター(PICU)が設置されており、小児の集中治療についても実習できる体制となっています。M4～M5の小児内科実習（通常CC）は、附属病院（1 or 2 週間）と筑波メディカルセンター病院（1 週間）で行われます。選択 CC ではこの附属病院の実習期間中に回れなかった専門分野や、希望に応じた院外実習も行えます。各専門分野チームの一員として研修医レベルの役割を担い、カンファレンスや回診でプレゼンテーションを行い、積極的に診療に参加してもらいます。病棟実習だけでは不十分な専門分野に興味がある場合には外来診療や研究室業務にも参加できます。小児内科レジデントレクチャーに参加してレジデントと同じレベルで小児医療に関する知識や技能を習得します。

2) 実習の特徴

選択 CC では、新生児から年長児まで、そして全専門分野にわたる幅広い小児科実習を行います。小児をすべての発育・発達段階で、かつ全臓器的にとらえる視点を養い、小児科学の醍醐味に触れてもらおうと考えています。レジデントとともに診療に参加することでレジデントレベルのより高度な知識や技能を身につけることができます。各疾患に関連する英文論文を読み、教科書に載っていないような最新の知見を得ることで小児医療の進歩を肌で感じてもらい、さらに県内外で開催される各専門分野の研究会や勉強会、学会にも積極的に参加してもらうようにします。県内主要病院を結んだITネットワークを利用したTV会議やカンファレンスにも参加し、小児周産期の遠隔教育システム的一端にも触れてもらいます。アカデミックミーティングでは臨床に即した小児医学研究に触れることで、リサーチマインドも高めてもらおうと思っています。また、筑波大学附属病院の初期臨床研修コースの1つである小児科救急コースや小児特別プログラムについて先輩医師の研修内容を実際に目の当たりにすることでより深い理解が得られるものと思います。

3) 院外研修先施設

通常 CC) 筑波メディカルセンター病院

選択 CC) 茨城県立こども病院

茨城県立医療大学付属病院

県内の小児科クリニック

4) 学生への要望

選択 CC の事前学習として小児科学の教科書を幅広く読んでおくことをお勧めします。単に小児の病気の診断治療をするだけでなく、その子がより良い人生を歩めるように、予防、家族背景、社会問題にまで心を配る小児科学の魅力に気づくことができると思います。専門分野によっては実習時間外あるいは緊急に診療業務が発生することがありますので、レジデントと同じ研修ができるよう余裕のある実習時間を準備してください。興味ある専門分野を集中的に実習したいという希望があれば相談にのるようにします。M6のエレクトィブや卒後の初期研修を見据えた小児科実習を提供するつもりです。さらに2017年から始まる新専門医制度における小児科専門医獲得までの道のりについても理解してもらえるようにします。あくまで実習の主体は学生諸君ですので旺盛な問題意識と積極的な参加意欲をもって小児科選択CCを希望されることを期待します。

19. 小児外科

1) 実習の概要

- ・ 病棟での実習：朝・夕 回診、処置の手伝い
- ・ 手術室での実習：手術準備手伝い、手術助手、外回りでの補助
- ・ 外来での実習：術後患者の外来見学、初診患者の予診、採血・処置
- ・ 検査実習：造影・内視鏡検査の補助
- ・ M4 実習生へのアドバイス

2) 実習の特徴

通常の小児外科 CC は 1～2 週間しかなく、術前準備・手術・術後管理のすべてが必ずしも経験できません。選択 CC ではこの一連の流れを経験してもらい、他の外科にはない小児特有の繊細な管理を体験できます。手術ではより積極的に助手としての役割を担ってもらうなど、通常の CC より一歩進んだ CC となります。希望があれば筑波大小児外科出身の先生が開業している小児科・小児外科クリニックの見学も可能です。

また、小児外科疾患は子供の少ない地方都市では元々症例が少なく、人口の多い都会では小児外科疾患の総数は多いものの、大学病院や小児病院が林立しており一施設当たりの症例数は少なくなっています。幸いなことに筑波大学小児外科は新生児外科疾患や悪性腫瘍など症例数に非常に恵まれた環境にあります。

ぜひこのような恵まれた機会を利用して、有意義な実習をしていただきたいと思います。

3) 院外研修先施設

なし

4) 学生への要望

オーダーメードの実習が最も望ましい：何を教えてもらえるかの受け身でなく、何をみたいか、したいかの積極性を期待します。

そのためには、

- ・ 実習でどのようなことをしたいか、希望を予め伝えて欲しい。
- ・ カンファランスや回診でも質問をしてほしい。

自ら画像や病理を見ようという姿勢があれば、十分それに応えた実習にしたいと思います。

20. 精神神経科

1) 実習の概要

精神医学は近年、大きく進歩しつつある分野です。その進歩の基礎をなすのは、近年エビデンス指向でなされた精神医学的診察と診断法の確立です。精神神経医療の場で研鑽される学生諸君には、最先端の医療の魅力と発展を知っていただく一方で、根本をなす「心の診療」のスタイルを体得していただきたいと思います。

とくに大切なのは、うつ病など気分障害、統合失調症、認知症、それに不眠の症例を経験することとされます。多くの先輩医師や教員と行動をともにして、実地の感覚・知識・技術を身につけてください。

2) 実習の特徴

初回)

通常の実習と同等の内容を予定します。初診患者の予診

2回目)

精神神経医学の学び方は次のように分けて考えるとわかりやすいでしょう。第一に 面接の技術、第二に薬物治療と非薬物治療の技術、そして最後に脳の形態・機能画像の読影など検査方法とその評価の習得です。精神科の難しさのひとつに、客観的な指標が乏しいことが挙げられます。それだけに、心理検査や画像所見などを用い客観的な指標を可能な範囲で用い、それが及ばない点については五感を研ぎ澄まし、総合的に診断や治療の効果判定を行うところがポイントです。そこに精神神経科医療の醍醐味があります。具体的には以下を行います。

- A) 面接の技術向上のため、毎日、精神科外来で新患者の予診をとっていただきます。
- B) 状況に応じて患者から、治療の実際を経験していただきます。

3) 院外研修先施設

初回) 予定はありません

2回目) 4週間の選択 CC では希望があれば、そのうち2週間を院外（主に茨城県立こころの医療センター）での実習が可能なことがあります。希望する者は十分に前もって精神神経科の実習担当者に相談してください。

4) 学生への要望

時代がどう変わっても、心の世界への興味は尽きません。その一方、社会では自殺、発達障害、ひきこもり、認知症など数々の問題がクローズアップされており、精神医学に対する期待は大きくなってきています。私たち精神神経科では、時代を問わない精神神経医療の根本を押さえつつも、時代が求める心の医療を追求しています。大きな醍醐味とやり甲斐のあるこの分野にあなたの情熱と能力を注いでみませんか。

2 1. 病理診断科

1) 実習の概要

『病理診断』は医療の場に欠くことの出来ない診療科として、標榜科の一つに指定され、更にはがん診療拠点病院の認定の一項目で、常勤の専任病理医がいることが義務づけられています。これは悪性腫瘍を始め多くの疾患の診断・治療に病理診断が不可欠であることを意味しています。つまり、EBMを支える病理診断科の業務はまさに医学の基礎であると同時に臨床でもあります。『病理学』は疾患に対する知識も乏しい低学年で学んだこともあり、多くの学生は苦手意識を持っているかもしれません。しかし、1年間の病院実習を経験し、疾患に対する理解ができてくると、各疾患における個々の細胞の振舞いや病変の広がりなど病態を顕微鏡を通して直に目にすることで、病気に対する理解を飛躍的に深めることができると思います。

適切な病理診断を正確に行うには、幅広い医学知識と医療に対する考え方、疾患や症状と関連づけた組織診断方法を学ぶことが必要です。病理診断を行うことで、基礎、臨床に及ぶ幅広い知識を身につけられます。実習では病理診断科のスタッフおよびレジデントと共に検体の切り出し、組織・細胞診断、迅速診断を行い、カンファレンスでの発表や興味ある症例のレビュー、報告を行って、病理診断に対する考え方を学び、病理医の業務を理解します。

2) 実習の特徴

2週間の場合は、水戸協同病院、4週間を選択した場合は、筑波大学附属病院での研修となります。

初回) 2回目)

手術材料の報告書作成、カンファレンスでのプレゼンテーション、解剖報告書作成が主な実習内容となります。具体的な内容はその時期によって変わりますが、もし興味のある科・臓器があればそれに特化した実習も可能です。

初回の学生さんは、1週間回ってくる学生さんと一緒に、初めの1週間を過ごしてもらいますが、それ以外は2回目に回ってくる学生さんとほぼ一緒の研修となります。

3) 院外実習施設

(水戸協同病院)

大学よりも、「病理と臨床の距離が近い病院」で、「病理と臨床との関わり」をより学ぶことができます。具体的に行う実習内容としては、手術材料の報告書作成、指導医とともに標本を供覧する、解剖に助手として参加する、カンファレンスでのプレゼンなど大学と基本的には同じことを行いますが、「診断のついていない初診患者さんが多い」、「臨床医と一緒に検鏡する機会が多い」「全科参加の症例検討会がある」など大学とはまた違った病理医像を体験することができます。つまり、病理診断がどのように臨床に還元されるかを直接見るができます。

4) 学生への要望

医学は1つの生物学であり、時として病気をサイエンスとしてとらえることも肝要です。病理検体はまさに病気そのもので、これを肉眼で観察し、組織、細胞を顕微鏡で評価し、その元となる核酸、蛋白レベルの異常を突き止めるという感覚、即ち translational medicine としての病理学、病理診断を理解してもらいたいと希望します。

2.2. 形成外科

1) 実習の概要

- ・ 手術
実際に手術を見学し、手洗いし助手として参加する
- ・ 外来
術前後の患者の状態、手術適応、対応を学ぶ
- ・ カンファレンス
症例検討を行う
- ・ 病棟回診および処置
消毒、包帯交換を学ぶ
- ・ クルズス講義、縫合実習
講義形式のクルズス、縫合練習はそれぞれ週に1回
- ・ 入院患者の受け持ち
手術前～後まで一貫して診察する

2) 実習の特徴

- ・ 手術、外来の中で形成外科の疾患と臨床の現場を理解する
- ・ 実技的には、持針器、攝子を用いた皮膚縫合の指導・練習を行い、症例により実際に縫合を経験できる。また、4週以上選択の場合は顕微鏡下縫合、血管吻合の練習を経験できる
- ・ レポートによる実習報告(1週の場合)またはパワーポイントを用いた症例発表(2週以上の場合)を行う

3) 院外実習施設

関連病院（県立中央病院、水戸医療センター、新東京病院など）での研修は希望により調整する

4) 学生への要望

- ・ 個人の意欲次第で多くのことが経験できます
- ・ 参加する手術・疾患について予習してくることが望ましいです
- ・ 積極的な参加し、疑問な点は質問してください

23. 歯科口腔外科

1) 実習の概要

口腔顎顔面外科 (Oral and Maxillofacial Surgery) は、欧米などの先進諸国では医師がベースとなっているが、日本においては歯科口腔外科として歯科の標榜科の中に存在し、歯科医師が大多数であるために、医学生にとってはなじみが薄いのが現状である。しかし、口腔顎顔面外科は、歯科医業であると同時に医業でもあり、どちらの側からでもその頂点を目指せる唯一の科である。一方、歯科疾患は、歯周病など80%の罹患率を有する最も多い疾患であり、歯周病関連全身疾患として、脳梗塞・誤嚥性肺炎・細菌性心内膜炎・糖尿病・肥満・腎炎・肝炎・関節炎・早産など多くの疾患の関連性が指摘されているのにもかかわらず、医学生には学ぶ機会もない。

本実習では、一般の歯科の知識からはじまり顎口腔の特殊性や顎顔面口腔外科の臨床を学習するために、教官・レジデントに密着したクリニカル・クラークシップの体験型学習を、病棟業務を中心に集中して行う。それらを通して、病棟での入院患者の対応や手術、外来での歯科・顎顔面口腔疾患への診断・治療法を集約的に身につける。

2) 実習の特徴

初回)

病棟業務の実習を通して小外科処置を学べると同時に、通常の医科のローテートでは体験できない歯科分野を含めた診療の実習を行う。また、医科で扱うことのない歯科材料 (印象材・石膏など) を直接扱うことにより、歯科との共同でできることの可能性を探る。クルーズを通して歯科疾患、歯科放射線の読影、口腔外傷、口腔腫瘍などについての基礎知識を学ぶ

2回目)

顎口腔外科の特徴である咬合の考え方や、様々な顎顔面口腔疾患の知識を深めて、将来各自の専門領域との関連性について学習し、患者を歯科に紹介する際の基礎とする。また口腔ケアの重要性とその実践を学び、患者のQOL向上に役立てる。さらには、より高度な口腔顎顔面外科疾患の手術・治療法についての知識を習得する。

3) 院外実習施設 院外実習の設定はありません

4) 学生への要望

筑波大学歯科口腔外科は全国でも数少ないダブルライセンスの口腔外科医が診療を行っており、医科と歯科の融合の最先端を行っている。当科で、歯科および顎顔面口腔外科に特有の疾患に対する診断や治療に興味のある学生、医師にとってはまだまだ未知な顎口腔領域に興味のある学生、実際に手を動かしてみたい学生、医師となった後はほとんど習うことがないため、この場で歯科についての知識を掴んでおきたい学生など、理由は多様であっても何らかのモチベーションと意欲のある学生の参加を希望します。

2 4. 乳腺・甲状腺・内分泌外科

1) 実習の概要

当科の対象疾患としては乳癌、甲状腺疾患、副甲状腺疾患および副腎疾患です。診療内容は手術を中心とし、マンモグラフィや超音波検査などの画像診断、化学療法、分子標的療法、内分泌療法、放射線治療、緩和治療等を行っています。

対象臓器・疾患は比較的限定されていますが、カバーする範囲は疫学・診断から治療まで幅広く、またいずれの疾患においても全身管理が必要とされるので幅広い知識・技術が求められます。

2) 実習の特徴

初回)

入院患者さんを受け持ち、医療チームの一員として責任を持って患者さんの診断と治療の実習を行います。受け持ち患者さんの入院時より、病歴聴取・身体診察等を行い、指導のもとで、術前カンファレンスや回診時にはプレゼンテーションを行います。手術に参加し第2または第3助手を務め、局所解剖や手術手技等を学び、教員の指導のもとで、縫合や結紮も行います。また、周術期管理も学びます。

体表超音波検査では指導医のもとで乳腺や甲状腺の検査を行い、レポートを作成します。筑波大学において開発された組織弾性映像法（エラストグラフィ）も行います。また穿刺吸引細胞診、針生検、吸引組織生検等の超音波下インターベンションの補助を行い、その目的・方法等を学びます。当科が中心となって行っている放射線診断科・病理診断科・放射線腫瘍科・形成外科との合同カンファレンスに参加することで当科疾患のEBMに基づく診断・治療の実践を学ぶことができます。疾患の特性から患者さんには壮年期の女性が比較的多く、診療において社会的背景への考慮が他科とやや異なることも一つの特徴です。

乳癌、内分泌腫瘍ともに一部では発症の原因となる遺伝子変異が同定されており、遺伝子診断も積極的に導入しているので、学ぶことができます。

2回目)

上記に加え、外来診療において教官の診療を見学することができます。新患を担当し病歴の聴取や身体診察を行うこともできます。

3) 学生への要望

本学の内分泌外科は40年の歴史を持ち、わが国においてこの分野をリードしてまいりました。今では、世界初のリンパ節郭清を伴う内視鏡補助下甲状腺がん手術を行っており全国から患者さんが集まっています。また、日本では乳癌の罹患率・死亡率ともに上昇しており、それに比し乳癌を専門とする医師が少ないのが現状です。働き盛りの女性の命に関わる乳癌に対しては社会的にも注目度が高く、その診療へのニーズは非常に高いです。是非、当科にて実習を経験しその醍醐味を味わってください。きっと将来の糧になるはずです。

25. 眼科

1) 実習の概要

スタッフ、レジデントとともに医療チームの一員となり、外来、手術、病棟業務内容を行うことにより、医学生として習得すべき眼科領域の基本的知識、臨床手技、職種間の人間関係などを学ぶ。

2) 実習の特徴

10以上のクルズス、豚眼を用いた顕微鏡手術シミュレーションを行うことができます。
希望があれば院外研修も可能です。

3) 院外実習施設

水戸協同病院

土浦協同病院

国立霞ヶ浦医療センター

きぬ医師会病院

国立水戸病院

龍ヶ崎済生会病院

4) 学生への要望

楽しく活発に一緒に仕事をしましょう！！

26. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

1) 実習の概要

これまでの臨床・クラークシップの経験を踏まえて、耳鼻咽喉科・頭頸部外科のより深いかつ実践的な病棟実習、手術に加えて、外来実習を経験する。具体的には、通常の CC の入院患者の病歴聴取、身体所見記載、プレゼンテーション等に加えて、内視鏡検査の実際や聴力検査、平衡機能検査の実際を経験し、手術においてもより実践的な手技を学び、受け持ち患者の診断のみならず、検査方針、治療方針についても、スタッフの一員として討論、検討する。経験すべき疾患は、頭頸部癌、中耳・内耳疾患、鼻・副鼻腔疾患、めまい、鼻出血、呼吸障害、嚥下障害等である。

2) 実習の特徴

初回)

筑波大学附属病院病棟の他、外来診療も経験する。また、一般的な疾患や外来を経験したい希望があれば、学外病院等での短期間の実習も可能である。ただし、実習評価の主体は筑波大学耳鼻咽喉科教員が行う。

2回目)

筑波大学附属病院での実習の他、学外病院等での短期間の実習を推奨する。ただし、実習評価の主体は筑波大学耳鼻咽喉科教員が行う。

3) 院外研修先施設

初回)

筑波学園病院あるいは水戸協同病院

2回目)

筑波学園病院あるいは水戸協同病院

4) 学生への要望

選択実習としての認識を十分にもち、スタッフ、レジデントと同等の研修を行う気概で望んで欲しい。また、耳鼻咽喉科・頭頸部外科が、頭頸部癌ばかりでなく、聴覚、味覚、嗅覚、平衡機能、嚥下機能、発声機能など頭頸部の機能外科であることを、この時期に十分認識して欲しい。

27. 皮膚科

1) 実習の概要

皮膚疾患は腫瘍・アレルギー・感染症など幅広く多岐に渡る。大学病院では皮膚悪性腫瘍、水疱症、膠原病、その他の稀少疾患が多いが、一般病院での診療は炎症性皮膚疾患や皮膚感染症などの common disease が中心になる。本実習では大学病院および関連病院での実習を企画しており、皮膚疾患全般に関して幅広い知識が身につくとともに、興味のある領域に関してはさらに深い理解が得られる。2週から4週という実習期間を生かし、皮膚病変の診断と治療を一連として行う醍醐味を体験していただきたいと考えている。

2) 実習の特徴

初回) 原則として、大学病院で通常のCCを行う。

2回目) 大学病院と関連病院から選択して行う。希望があれば、1～2週間程度を院外実習として、関連病院で行う。

3) 院外研修先施設

2回目) 水戸協同病院、日立総合病院、東京医大茨城医療センター

4) 学生への要望

皮膚科に関心・興味がある学生を希望します。積極的に実習に参加してください。

28. 放射線腫瘍科

1) 実習の概要

放射線腫瘍科で学ぶ分野は、基礎から臨床腫瘍学全体に及びます。筑波大学の放射線腫瘍科では、放射線治療ができる医師を育てることではなく、集学的治療のなかでがん患者を診ることのできる医師の育成を目標としています。すなわち、がんの診断から治療に至るまでを理解するとともに、手術や化学療法など放射線治療以外の治療法についても理解することが必要です。臨床腫瘍学を身につけるのは、広汎な知識が必要なので大変ですが、選択実習で大切なのは、何かを見たり触れたりしたときに、自分の心で感じるようになるかどうかであると思います。放射線腫瘍科の選択実習では、診療グループの一員として入院や外来で患者を担当し、実際の患者さんの治療効果を経時的に観察するとともに、がんをもった患者さんや家族の心理的な側面にも触れることができます。一足早く若い医師の仲間入りをして診療グループの中で共に考え、“心で感じること”を目標に指導をしてゆきます。

日本の今後の医療を考えたとき、がん治療は最も重要な課題のひとつです。将来、がん医療に携わりたいと思っている学生には、ぜひ選択することをお勧めします。

2) 実習の特徴

初回)

- ・放射線腫瘍科の診療は、指導医 10 名、後期研修医 8 名の体制で、臓器別、グループ別診療です。指導医の先生をトップとして、CF、レジデントあわせて複数の診療チームを作りで第一線の診療にあたります。選択実習の学生はこのグループに入り、行動を共にすることで現場での放射線腫瘍学を学びます。
- ・各科との定期カンファレンスに出席し、個々の症例に関するそれぞれの立場（病理、放射線診断、内科、外科、放射線腫瘍科など）からの考え方を学びます。また、放射線腫瘍科内のカンファレンスでは、根治療法から対症療法、終末期医療の考え方を学びます。
- ・実習期間内に教員による小講義を設けて、各腫瘍の特徴について学びます。
- ・小線源治療では、助手として実際に手術に参加することができます。高精度 X 線治療や陽子線治療では、個々の症例に対してコンピュータを用いた計画を行うとともに実際の治療に立会い、画像で照射位置を合わせる技術や呼吸同期法などの最新技術に触れ、放射線治療の流れを学びます。

2 回目)

- ・既に一度、放射線腫瘍科での実習を経験した学生が選択実習を希望する場合は、個別に面接を行い、希望に応じてプログラムを作成します。院外での実習も可能です。
- ・臨床研究の検討会においては、臨床試験をどのように組み立ててゆくのかを実感することができます。
- ・放射線生物学、物理学の研究に触れることができます。希望すれば、培養細胞を用いた生物学的研究や放射線の測定などの物理的研究の場において、自分のテーマを持って、学生のうちから研究に従事することも可能です。
- ・研究会や学会等にも参加することができます。興味があれば研究発表も可能です。

3) 院外実習施設

初回)

始めて放射線腫瘍科を実習する場合には、原則として大学での実習とします。前頁の「初回」を参照してください。

2回目)

県内第一線の医療機関での見学を通して、地域における放射線治療の実際を知ることができます。近隣の他病院（がんセンターなど）や他大学などの実習も可能ですので、希望者はあらかじめ申し出てください。

4) 学生への要望

放射線腫瘍学あるいは腫瘍学全般に興味を持っている学生はもちろんのこと、どなたでも歓迎します。一度に3人程度の学内での選択実習の受け入れが可能です。人数が多い場合でも、院外実習などを調整して可能な限り受け入れます。

29. 放射線診断・IVR グループ

1) 実習の概要

期間は2週間で、phase II で放射線診断を選択できなかった学生を対象として行う。したがって、内容は phase II で通常に回っている学生の実習と同じで、一クールに対し phase II の放射線診断の学生と合わせ、学生総数4人まで受け入れ可能（最大6人まで可能ではあるが、その場合は効率がやや悪くなる可能性があり、要相談）。

実習は1) 種々の検査を見学し、その検査の適用・検査計画・実際の検査の実施方法・検査の合併症、などについて学ぶ、2) 診断名を伏せた症例が与えられ、それに関し自分なりにレポートを作成しクルズスで発表し、講師とともに疑問点に関し議論する、3) 種々のカンファレンスに参加して多くの症例を見聞する、4) コンピューターソフトや指定教科書を使って自己学習を行い、疑問点はクルズスで解決する、の4部構成となる。

2) 実習の特徴

- ・ 各自、読影のノルマ（単純写真、CT、MRI などを含む1症例）が与えられ、その症例に関し実際に自分でレポートを作成する。
- ・ そのレポートを元にクルズスで発表し、スタッフと討論を行い、その過程を通して知識を得ていく。ソクラテス方式で質疑応答を盛んに繰り返す。
- ・ 実習時間帯はJ1・J2 と同じく、8:30a.m. から 19:00 頃まで。
- ・ 土、日は休みであるが、希望者はいろいろな画像関連の研究会に出席することをお勧めする。

3) 学生への要望

- ・ 真に読影力をつけたい人は大歓迎です。ただし人数制限があり、希望者が多い場合はくじ引きで決めます（くじで当たらなかった人は他科の選択をお願いします）。
- ・ Felson の名著の訳本である「フェルソン 読める！胸部X線写真：楽しく覚える基礎と実践」（診断と治療社、256p、7,140 円）を期間中に指定教科書として貸し出します。既に読んでいる人にはそれより上級の別の教科書も用意してありますので申し出てください。（「画像診断を学ぼう：単純X線写真とCTの基本」MEDSI、316p）
- ・ 受身の姿勢で待っていても何も得られません。画像を前に、自分の頭で考え、解剖学の教科書で解剖を確認し、自分でレポートを作成して、その添削を受けることの繰り返しによってのみ、パターン認識の基本・読影ロジックの基礎が身につきます。ぜひ自分から放射線科のスタッフ・レジデント・コメディカルと積極的にコミュニケーションを取って実習を進めていってください。
- ・ 朝9:30以降に来て「教えてください」と言われても、言われた我々の方は朝早くから働いており、不愉快な気分になるのは皆さんにも理解してもらえらるでしょう。教育を受けたい場合はそれなりの姿勢を見せてくださるようお願いします。
- ・ 上記の内容から、選択CCの学生さんのみにポスター発表の準備を設定するのは困難なため、基本的には対応しません。ただし強い希望がある場合には申し出てください。追加のタスクを指定させていただきます。

（文責 南 学）

30. 総合診療科

1) 実習の概要

総合診療科は、臓器別の概念にとらわれず、健康に関する問題について幅広く扱う診療科であり、その活躍の場は、保健・医療・福祉の各領域にわたっています。

総合診療科に求められるニーズは、「場」によって異なります。総合診療科の実習は、はじめの3週間は学外施設で実習し、最終週は学内で実習のふりかえりやまとめの学習を行います。学外実習については、事前に実習生の興味をもつ分野（病院の総合診療科、診療所など様々な場での地域医療、家庭医療、緩和ケア、医学教育など）について簡単なアンケートを行い、プログラムを組みます。

2) 実習の特徴

初回)

当科では、大病院からへき地・離島*の診療所まで様々な「場」を経験できるのが大きな特徴です。その場に求められる医療を実践する地域医療・家庭医療、主訴や身体所見から患者の診断を導く臨床推論、それを患者さんに届ける情報共有と意思決定、論文の批判的吟味から適用まで実践するEBM、行動科学をもとにした行動変容、病気や生活に関わる心理社会的問題に対するアプローチ、複数の職種役割を活かし合う多職種連携、地域のコミュニティづくりなど、プライマリ・ケアに必要な臨床能力について掘り下げて学習できます。また、興味のある人は、緩和ケアや医学教育を深く勉強することもできます。

*離島実習は受け入れ実習先の状況により調整ができない場合があります。

2回目)

通常CC（必修総診CC）は茨城県内で実施するもので、内容は全く異なります。

3) 院外実習施設

初回)

4週間のうち、はじめの3週間を、北海道から沖縄まで、国内の様々な地域に滞在して、各々の地域背景・ニーズにあわせた医療を提供する施設にて実習を行います。

実習施設例（平成28-29年度受け入れ機関の一部）

北海道家庭医療学センター（上川医療センター、更別村国保診療所）（北海道）、石巻市立開成仮診療所/石巻市立病院（宮城県）、石岡第一病院、国立霞ヶ浦医療センター総合診療科、筑波メディカルセンター病院緩和ケア科（茨城県）、柳原病院、東京城東病院内科、東京ほくと医療協同組合（王子生協病院・浮間診療所・鹿浜診療所・汐入診療所・北足立診療所・荒川生協診療所）、桜新町アーバンクリニック、武蔵国分寺公園クリニック、大島医療センター（東京都）、あおぞら診療所、花の谷クリニック、わざクリニック（千葉県）、あさお診療所、川崎セツルメント診療所（神奈川県）、諏訪中央病院総合診療科（長野県）、湯沢町保健医療センター（新潟県）、富山かみいち総合病院/まちなか診療所（富山県）、シティータワー診療所（岐阜県）、月ヶ瀬診療所、明日香村診療所（奈良県）、小値賀診療所、上五島病院（長崎県）、ほーむけあクリニック（広島）、唐津市民病院きたはた（佐賀県）、ファミリークリニックきたなかぐすく、沖縄県立宮古病院、与那国町診療所、沖縄県立八重山病院附属小浜診療所（沖縄県）ほか

2回目) 通常CC（必修総診CC）は茨城県内で実施するもので、内容は全く異なります。

上記通り、選択CCも一部に茨城県内の実習施設があります。

4) 学生への要望

- ・ 臨床推論をきちんと勉強したい、へき地の医療にどっぷりつかってみたい、終末期医療の現場を見たい、在宅生活を支える訪問診療/看護/リハビリを実感したい、場に応じた総合診療医の役割の違いを知りたい、多職種連携やコミュニティづくりに興味がある、学生に役に立つ医学教育を学びたいなど、大学だけでは学べない総合診療の分野に興味のある人を歓迎します。
- ・ 実習にあたり、学外実習施設への挨拶メール、宿泊施設の手配、実施後のお礼状の送付など実習のための様々な手続きが必要になります。実習準備から実習中、終了後を通して、社会人としての礼儀はもちろんのこと、医学生としてやる気と責任感をもって行動し、実習にのぞむ高い意欲のある方のみを受け入れます。
- ・ 実習生の希望を参考にして実習を組みますが、地域の実習施設の受け入れの事情もありますので、必ずしも希望する施設での実習になるとは限りません。
- ・ 学外実習の際の交通費、宿泊費用は全額自己負担となります。

3 1. 感染症科

1) 実習の概要

午前

- ・ 血液培養陽性症例およびコンサルテーション症例の病棟ラウンド
- ・ 外来見学（週1回）

午後

- ・ 細菌検査実習
- ・ レクチャー
- ・ ケースカンファレンス
- ・ 症例プレゼンテーション

2) 実習の特徴

- ・ 血液培養陽性症例およびコンサルテーション症例を中心に、感染症治療の基本的な考察のしかたを学んでももらいます。
- ・ 外来では、主に HIV 感染症患者を診察してもらいます。
- ・ 細菌検査実習では、グラム染色の意義や手技を学んでももらいます。

3) 院外実習施設

初回) 原則院内実習となります。

2回目) 原則院内実習となります。

4) 学生への要望

- ・ 一単位一名のみ受け入れます。
- ・ 実習初日は、病院3階の細菌検査室に9時に集合して下さい。
- ・ 分からないことや疑問に思ったことは、積極的に質問するようにしてください。

M5
選択CC実習ガイドライン

第41回生

2018年発行
筑波大学 医学類
